

噂の HERO

FCマルヤス岡崎で活躍する平野雄也さんをインタビュー！

各メディアで華やかな話題をふりまくJリーグ。その一方で、FCマルヤス岡崎のような実業団サッカーチームの存在をご存知だろうか？ 今回取材をした平野さんは、マルヤス工業株式会社に働きながらサッカーを続けるサッカー選手。二足のわらじを履いているからこそ抱く、サッカーへの熱い思いを語ってもらいました。

「サッカーとの出会い」

「子供のころは野球をやっていたんですけど、ボールが目にあたってケガをしてしまい『もう野球はやっちゃだめだ』と眼科の先生に言われたんです。それで、小学校3年のときにサッカーを始めました。『野球はだめだけどサッカーだったらいいのか？』っていう話なんですけどね笑。徐々に選抜チームに選ばれるようになってくると、自分より上手い選手がたくさん現れてくるんですよ。自然と『その子たちよりも上手くなりたい！』と思って練習に取り組み、その延長線上が今です」

「学生時代」

「サッカーの強豪校だった岡崎城西高校に進みました。部員が100人以上いたので、友達になると同時にお互いライバルにもなるわけです。日々、そういう仲間たちと切磋琢磨する環境に身を置けたことは本当に良かったと思います。社会に出てからも、部活での経験は様々な場面でいきていると感じますね」

「部活の思い出を教えてください。」

「部活漬けの日々を送り、3年の冬、選手権大会に出ることができました。最後の試合、ぼくは点を決めることができたのですが3対1で負けてしまいました…。後悔している試合でもあります。印象に残っています。東海でレベルの高いサッカーを続けようとする、愛知学院大学から中京大学になってきます。知っている先輩もいたので、卒業後は愛知学院大学に進学しました」

「大学生活もサッカー漬けでした？」

「そうですね。でも、最初は意識の違いに衝撃を受けました。ぼくは『ただ大学でサッカーをやること』が目標だったんですけど、周りには『4年後プロになること』を目標としていたんです。おかげで、ぼくも高い意識で取り組むことができた。『壁にぶつかったとき、その壁を平野さんはどう乗り越えていますか？』

「大学で読んだ本に書いてあったのですが、日本人は『頑張ろう』ってよく言うじゃないですか。『頑張ろう』を英語で表現すると『ENJOY』になるみたいなんです。『頑張ろう』と思うと頑張れないことが多いし、つらいと思っちゃうんです。でも、『頑張ろう』を『ENJOY』に意識を変えたら、つらい練習なども前向きに取り組めるようになりました」

「仕事について」

「マルヤス工業で経理として働きますが、JFL(※1)に所属するFCマルヤス岡崎でサッカーを続けています。FCマルヤス岡崎を選んだのは、少しでも高いレベルでサッカーに取り組みたかったからです」



©FCmaruyasu/UNO.

会社員として働きながらサッカーを続けていることに対して、特別な思いはありますか？

「ぼくの性格上、Jリーガーには向いていなかったと思います。なれたかどうかは別ですよ笑。引退などのリスク(※2)もあるのに、経済的に安定した環境でサッカーを続けたいと昔から決めていました。『つまらない中途半端なやつ』とよく言われていました笑。でもその中途半端さのおかげで、ずっとサッカーを続けられているんだと思います」

「年間の予定を教えてください。」

「1月から練習を始め、3月からリーグ戦が開幕します。6月で前期日程が終わり、8月に天皇杯、7月から11月まで後期日程がおこなわれます。土曜が試合の場合、月曜はフィジカル系の練習。火曜、木曜は試合形式の練習が多く、金曜は戦術確認やセットプレー練習をして試合に臨みます。8時半から17時半まで経理の仕事をしたあと、19時過ぎから21時半ごろまで練習をします」

「心がけていることは？」

「5年前に左ひざをケガしたのですが、去年、同じところをケガしてしまいました。全治6ヶ月でした。今回はケガをしたから気づけたことが大きかったです。自分の環境を客観的に見ることで、裏方さんの支えがあるおかげでサッカーができていたんだと感じました。いまの環境を当たり前だと思っただけ。家庭の時間も増え、奥さんの支えにも気づくことができました笑」

「やりがい」

「昔は、純粹にサッカーが上手くなっていくのが楽しかっただけ。その気持ちは、もちろんいまもっています。でも、チーム全員で練習してチーム全員で戦い、チームの努力が勝利という結果で表れたときは、何よりもうれしい瞬間ですね。それが、いままでサッカーを続けてきた理由です。これからも続けていきたいと思っ理由です」

「メッセージ」

「Jリーガーはサッカーが仕事なので、サッカーが好きで好きな人もいれば嫌いな人もいると思うんです。でもぼくのような環境だと、サッカーが好きで好きな人じゃないと続けられないと思いますよ。ぼくより上手い選手なんて小中高大学でたくさんいましたけど、途中でやめていく人も多かった。きつと、そこまでサッカーが好きじゃなかったんだと思います。ぼくはどれだけ下手でもサッカーが好きだから途中でやめなかったですし、向上心があるからいまも続けています。プロとしてサッカーを続けるなら、王道



©FCmaruyasu/UNO.



©FCmaruyasu/UNO.

AMBITIOUS #068 サッカー選手

「紹介チーム情報」 FCマルヤス岡崎

- 住所 岡崎市橋目町北山1
- URL <http://www.fc-maruyasu.jp/>
- Facebook <http://www.facebook.com/fc.maruyasu/>

平野 雄也 さん

昭和59年生まれ 愛知学院大学経営学部卒業

「出身高校」 岡崎城西高等学校

- 18歳 岡崎城西高校でサッカー漬けの日々を送る。全国高校サッカー選手権に出場。
- 23歳 愛知学院大学でもサッカー漬けの日々。卒業後、FCマルヤス岡崎に所属。
- 30歳 チーム一丸となって練習に励み、勝利を目指してENJOYする毎日。



©FCmaruyasu

はJリーガー。でも、ぼくのようにJFLでもサッカーは続けることができますし、市民リーグでも続けられます。ぼくは、なるべく高いレベルでサッカーがしたいという思いがあったので、いまの環境に身を置いています。自分がどのレベルでプレーしたいのかによると思いますが、学生時代は様々なことに疑問をもち、なんでも当たり前だと思わないことが大切。生活するなかで、いままで当たり前だと思っていたことを違う視点から見ると、とても大切だと思えますよ」

「ありがとうございます。」

※1 JFL：公益財団法人日本サッカー協会と一般社団法人日本フットボールリーグが主催・運営するサッカーリーグ ※2 引退などのリスク：Jリーガーの平均引退年齢は25才前後